

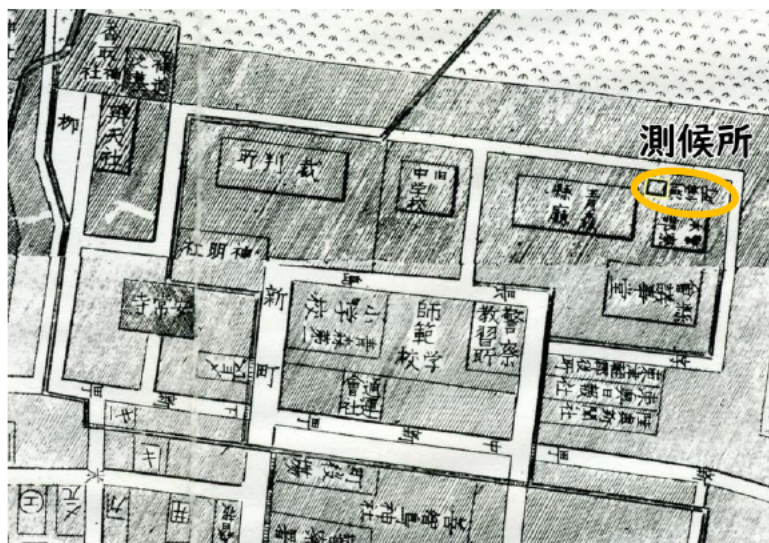
こんにちは！歴史資料室の鈴木です。

歴史資料室では、来年1月11日までの館内展示「県都誕生150年—近代都市への脱皮」で、県都となった青森市に置かれた行政施設・文化施設等を紹介しています。今回は、その中から「青森測候所」についてお話ししたいと思います。

まず、明治8年（1875）6月1日に気象庁の前身である東京気象台（のちに中央気象台）が内務省地理寮（後に地理局）内に創設され、気象観測が開始されました。現在、この日は「気象記念日」とされています。さらに、明治11年には暴風警報事業を創設するため各地に測候所が設けられることになりました。これについて、同年1月に内務卿が太政大臣に宛てた「気象測量場設置についての上申書」によれば、青森・仙台・新潟・兵庫・長崎が設置予定地に選ばれたとあります（仙台管区気象台ホームページより）。

青森測候所は、明治15年1月1日に青森県庁構内に内務省地理局直轄の出張所として創設されました。これは東北6県の中で2番目に早い設置です。

そして、翌16年には東京気象台が初めて天気図を作り、初めての暴風警報も発表しました。また青森町でも、明治22年1月に市街地の8カ所（青森警察署、新町、大町、米町、堤町、新浜町の各交番、浜町暴風信号揭示場、戸長役場）に天気予報揭示場が設けられたそうです。

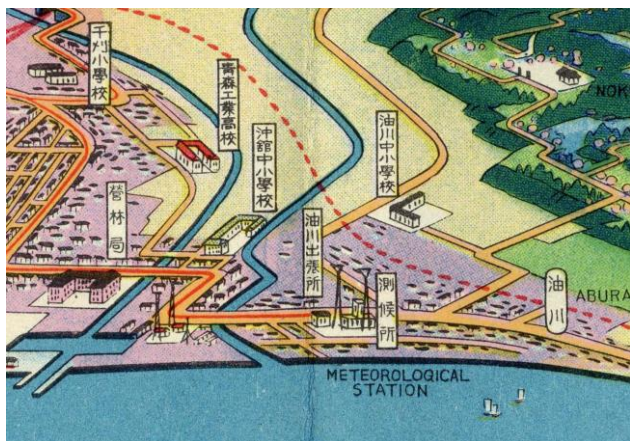


青森県庁構内に置かれた測候所  
(明治25年「青森実地明細絵図」)

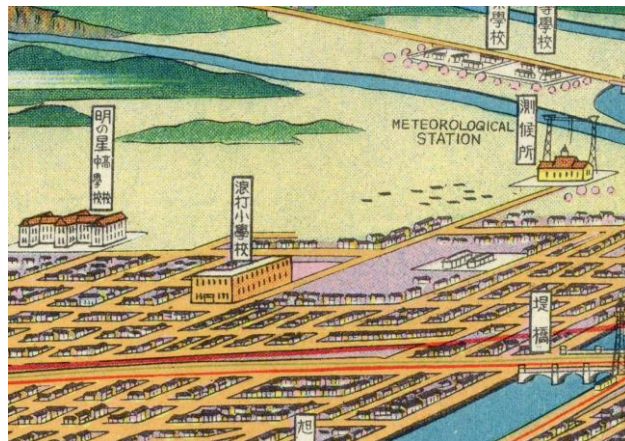
明治20年に青森測候所は県に移管され、この年、県の吏員として2代目所長を務めたのは、のちに『東奥日報』を創刊し、初代弘前市長となる菊池九郎でした。その後、明治44年に青森警察署構内に移転し、昭和3年（1928）1月には浜館村大字松森字佃（現つくだウェザーパーク）に庁舎を新築し移転しました。

昭和13年、測候所は再び国に移管されて中央気象台青森測候所となり、翌年には昭和8年竣工の青森飛行場に近しい油川字大浜の新庁舎に移され、佃庁舎は臨時出張所とされます。

そして、戦後の昭和31年1月に青森測候所は佃庁舎に戻り、翌年から「青森地方気象台」となりました。平成元年（1989）には現在地の花園1丁目に移転しています。



油川にあった青森測候所  
(昭和 23 年「青森市鳥瞰図」)



青森測候所佃出張所  
(昭和 23 年「青森市鳥瞰図」)



佃にあった青森气象台  
(昭和 35 年版「市政要覧」)

ちなみに、東北で一番早く測候所が設置されたのは宮城県です。ただし、設置場所は仙台ではなく、現在の東松島市にある野蒜のびるでした。野蒜は鳴瀬川河口に位置し、東日本大震災で大きな被害を受けた地区です。明治 10 年代、ここに北日本随一の大港湾「野蒜港」を築港する計画が立てられ、それに伴い当初は仙台に予定されていた測候所設置場所が変更されたのです。そして、明治 14 年 4 月 1 日に東北地方最初の測候所が設置され、同年 7 月 1 日から業務が開始されました。しかし、この築港計画は頓挫し、野蒜に設けられた測候所は明治 20 年に石巻に移転となりました。

※今回のトリビアは『青森県の気象百年』（昭和 61 年 青森地方气象台発行）、気象庁ホームページ等を参考にしました。